

中長期基本計画 2026-2030

(令和8年度～令和12年度)

令和8年5月27日 令和8年度第1回理事会 決定

第1章 基本方針

1. ミッション(使命)

一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会(以下「当協会」という。)は、聴覚障がい者のビーチバレーボール競技の普及・発展及びデフリンピックを頂点とする競技力向上を中核事業としながら、障がいの種別を超えたインクルーシブスポーツ環境の整備と、運動療育・スポーツ科学の知見を活かした児童福祉事業を通じて、共生社会の実現に貢献することを使命とする。

2. ビジョン(将来像)

2030年度において、当協会は以下の姿を目指す。

- ・デフビーチバレーボール競技の国内統括団体として確固たる地位を確立する
- ・デフリンピックにおけるメダル獲得を実現する
- ・座位ビーチバレーボール競技の普及を推進し、インクルーシブなビーチスポーツ環境を整備する
- ・Be-You プログラムを全国5施設以上に展開し、運動療育のモデルを構築する
- ・スポーツと福祉を融合させた共生社会モデル団体として認知される

3. 現状分析

当協会は2017年に大分市を拠点として設立され、デフビーチバレーボール競技の振興を目的とした競技団体として活動してきた。2025年東京デフリンピックでは男子代表(今井勇太・瀬井達也ペア)が過去最高位の第4位を獲得し、競技力の着実な向上が実証された。

一方で、競技人口は全国で約50名程度にとどまり、組織財政においても自主財源比率の向上が課題となっている。また、JPC ガバナンスコードへの適合を進めるうえで、組織体制の整備・強化が急務となっている。

児童福祉分野においては、早稲田大学スポーツ科学学術院・広瀬統一教授との連携により開発した「Be-You プログラム」を柱に、キネサポ(児童発達支援・放課後等デイサービス)の施設展開を進めており、スクエアエニックス・ホリプロとの共同事業「コモロたいそうプロジェクト」

ト」も展開中である。

第2章 重点目標と数値目標

重点目標	主な取組内容	2030 年度目標値
(1)競技力向上	・デフリンピックメダル獲得へ向けた強化合宿の実施・強化指定選手制度の整備・国際大会への定期派遣	強化指定選手 10 名以上 年間合宿 4 回以上 国際派遣年 1 回以上
(2)競技人口拡大	・全国各地での体験会・普及イベント実施・ジュニア育成環境の整備・地方協力団体との連携	登録競技者 100 名以上 普及イベント年 10 回以上 地方協力団体 5 団体以上
(3)大会運営・地域振興	・全日本選手権大会の継続開催・街中ビーチ特設による国際親善大会の定期開催・スポーツツーリズムとの連携	全国大会年 1 回 国際大会 2 年に 1 回以上 参加者満足度 80%以上
(4)児童福祉・運動療育	・Be-You プログラムの普及・展開・早稲田大学との共同研究継続・コモドたいそうプロジェクトの推進	導入施設 5 施設以上 研修会年 2 回以上 学術連携の継続
(5)座位 BVB 統括・普及	・日本パラバレーボール協会との連携協定締結・座位 BVB 体験会の開催・デフ・パラ合同大会の開催検討・指導者・審判員の育成	体験会年 3 回以上 指導者 10 名以上 審判員 5 名以上 連携大会年 1 回以上
(6)組織基盤の強化	・自主財源の確保(スポンサー・会費)・女性役員・若手の積極登用・ガバナンス体制の整備	自主財源比率 50%以上 賛助会員 100 名以上 スポンサー10 社以上 女性役員比率 30%以上

第3章 戦略課題と実行計画

1. 競技力強化戦略

2025 東京デフリンピックで男子がベスト4を達成した競技力をさらに向上させ、2029 年次期デフリンピックでのメダル獲得を目指す。内耳特性によるバランス感覚の課題や感覚統合の未発達などに対する独自のノウハウを活かした科学的強化を推進する。

- ・年4回以上の強化合宿の実施
- ・スポーツ科学を活用した個人別強化プログラムの策定
- ・世界ランキング上位国との国際交流の拡大
- ・ジュニア代表候補の発掘・育成ルートの確立

2. インクルーシブスポーツ推進戦略

当協会は、デフビーチバレーボール競技の統括団体としての機能に加え、座位ビーチバレーボール(Sitting Beach Volleyball)競技の普及・人材育成においても中心的役割を担う。日本パラバレーボール協会との連携を推進し、障がいの種別を超えたインクルーシブなビーチスポーツ環境を整備する。

- ・令和8年度中に日本パラバレーボール協会との連携協定の締結
- ・座位ビーチバレーボール体験会を年3回以上開催
- ・デフ・パラ合同大会の検討・実施
- ・インクルーシブスポーツイベントへの積極参画

3. 財務基盤強化戦略

補助金依存からの脱却を図り、自主財源比率 50%以上を目指す。スポンサーシップの拡大、賛助会員の増加、Be-You プログラムの商業展開等を組み合わせた多角的な財源確保を推進する。

- ・スポンサー企業 10 社以上との契約締結
- ・賛助会員制度の整備と 100 名以上の獲得
- ・キネサポ事業の収益化と拡充
- ・補助金・助成金申請の積極的推進

第4章 PDCA サイクルによる計画管理

本計画は毎年度の理事会において進捗状況を評価・検証し、PDCA サイクルにより継続的に改善を図る。

段階	時期	内容
P(計画)	毎年度期首	年度事業計画・予算の策定、目標数値の設定
D(実行)	通年	各事業の実施、実績データの記録・収集
C(検証)	毎年度末	事業報告・決算による達成状況の評価、理事会への報告
A(改善)	翌年度期首	目標・方策の修正、次年度計画への反映

第5章 計画の公表

本計画は、当協会公式ウェブサイト(<https://dbva.jp>)において公表する。また、社員総会・

強化合宿・イベント等の機会を通じて、登録選手・指導者・賛助会員等の構成員に対して広く周知を図る。

一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会
〒870-0873 大分県大分市高尾台 1-1-2
理事長 牛尾 洋人